

【議会報告会】

特になし

【シティ・ミーティング】

《テーマ：多文化共生について》

Aグループにおいて出された主な意見

- 外国人は日本語を理解することに一番困っている。市内の各種標識や表示についても先進市のように多くの言語を併記すべき。
- 外国人というだけで敬遠せず、日本人から積極的に交流していくべき。
- 公的機関などで外国人実習生等が研修を受ける機会があるが、その際に通訳者が通訳しやすい説明をしてもらいたい。例えばビデオを流す場合に一定のところで区切ってその都度通訳のタイミングを与えるなど配慮すべき。
- 多文化共生を進めるために日本のルールや風習を守らせたり、文化活動に参加させるべきという意見もある。ゴミ出しなど最低限のルールを守らせることは必要だが、日本人でも祭や地域行事に参加しない人がいる中で、外国人に対して半ば強制的に参加するよう働きかけることは少し違うのではないか。
- 外国人実習生に四日市をPRする目的で四日市港ポートタワーの展望台に案内したが、学生の社会見学であれば入場料が免除になるところ、外国人実習生では免除とならなかった。もう少し融通してほしい。

Bグループにおいて出された主な意見

- 来日して間もないころ、当時務めていた会社では、他の従業員との会話は私語になるということで禁止されており、コミュニケーションをとることに苦労した。その後、多文化共生サロンの存在を知り多くの人と交流できたが、サロンの開館時間が短いのもう少し長い時間開館してもらおうとよい。
- 日本語が話せず、かつ、小さい子供をもつ外国人は特に医療関係で困る。病院では症状等を正確に伝える必要があるのですが、日本語が話せない場合は通訳してくれる人に通訳料や昼食代を払って病院に行く必要があり負担となっている。また、大きな病院だと紹介状がないとお金を取られたり、同じ病院なのに別の科に行くと別途医療費がかかったり

することも負担である。

- アパート等を探す際もペットがダメだといわれることが多いので苦労する。また、そもそも大家が外国人の入居を拒む場合もあり、何度も断られたことがある。
- 仕事について、技能がある外国人もいるが、外国人というだけで派遣社員としてしか働けなかったり、正當に評価されないことがあるので悔しく感じることもある。
- 笹川地区の中には外国人住民の一部の問題行動だけ取り上げ、外国人全員がそのようであると考えている日本人がいるので、そういった考え方は改めさせるべきである。